

## 概要

- プログラム名 「科学技術外交の展開に資する国際政策対話の促進」
- プロジェクト名 「e-アジア国際シンポジウム2012」
- 総括責任者 「武田郁夫」
- 実施団体 「一般財団法人 武田計測先端知財団」

### 1. 目標

東アジア各国の科学技術コミュニティ、民間営利・非営利部門、政府関係機関の代表者が、e-アジア国際シンポ 2011 で課題となった域内共同人材育成や共同研究について多面的な視点から議論を行うことにより、域内連携について理解を深める。前回より**規模を拡大**(参加国 7 か国→10 カ国以上、海外からの参加者 10 名→15 名以上)し、**継続的な議論**を行いアジア諸国への科学技術連携についての具体的な政策提言に繋げる。また、**若手関係者を招へい**して、域内連携に対するモメンタムを拡大する。幅広い一般聴衆の域内連携に対する理解を深め、域内連携への合意形成につなげる。

### 2. 必要性

域内連携を有効に進めるためには、関係者間の**信頼を醸成**し、国としての公式見解や主権的議論にしばられない**自由かつ多面的な議論**を行う必要がある。それには、**民間主催による国際対話**が有効である。また、継続的な議論を行うことにより、関係者が納得できる**域内連携の共通の目標や考え方**を構築する必要がある。域内連携のような大きな政策には広い**一般社会の合意形成**が必要であり、公開シンポを継続して行う必要がある。

### 3. 具体的内容

1 日目に、科学技術関係者によるワークショップ(WS)を開催し、e-アジア国際シンポ 2011 で議論となった共同人材育成や共同研究の課題についてその後の進展を報告し、解決策について議論を行い、域内連携に向けて具体的な政策提言を目指す。2 日目には、一般に公開する国際シンポジウム(OS)を開催し、WS で行われた議論を基に WS 参加者と聴衆を交えたパネルディスカッションを行う。WS と OS の結果と政策提言を日英両文で出版し、関係機関に送付する。

### 4. 実施計画

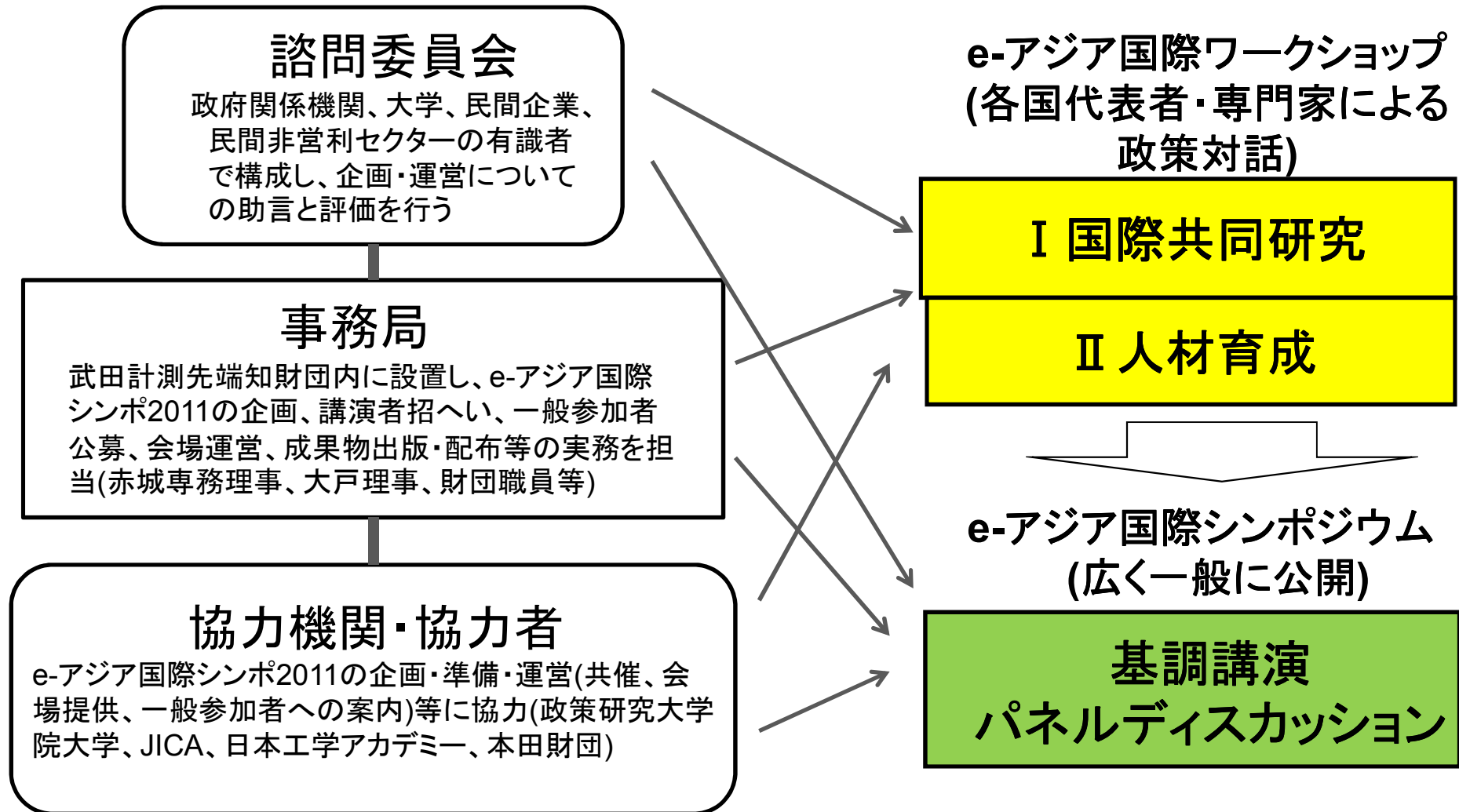
6 月より諮問委員会、協力者による連絡会を開催し、前回のシンポで課題となった事項について調査や調整を行うと共に、海外参加者の招へいを開始する。7 月から 8 月の間に事務局がアジア各国の招へい者を訪問し、事前調整を行う。10 月 19、20 日の両日、e-アジア国際シンポを開催する。人件費 100 万円、旅費 550 万円、会議費(会議開催費、謝金、雑役務費)730 万円、成果物出版と送付 120 万円、合計 1500 万円。

### 5. 実施体制

シンガポール国立大学リークアニュー公共政策大学院大学、泰日工科大学、ASEAN 高等教育ネットワーク(SEEDNet)、ハノイ工科大学、ヤンゴン工科大学と連携して、代表者の人選・招聘を行う。

# 実施体制

## e-アジア国際シンポジウム2012



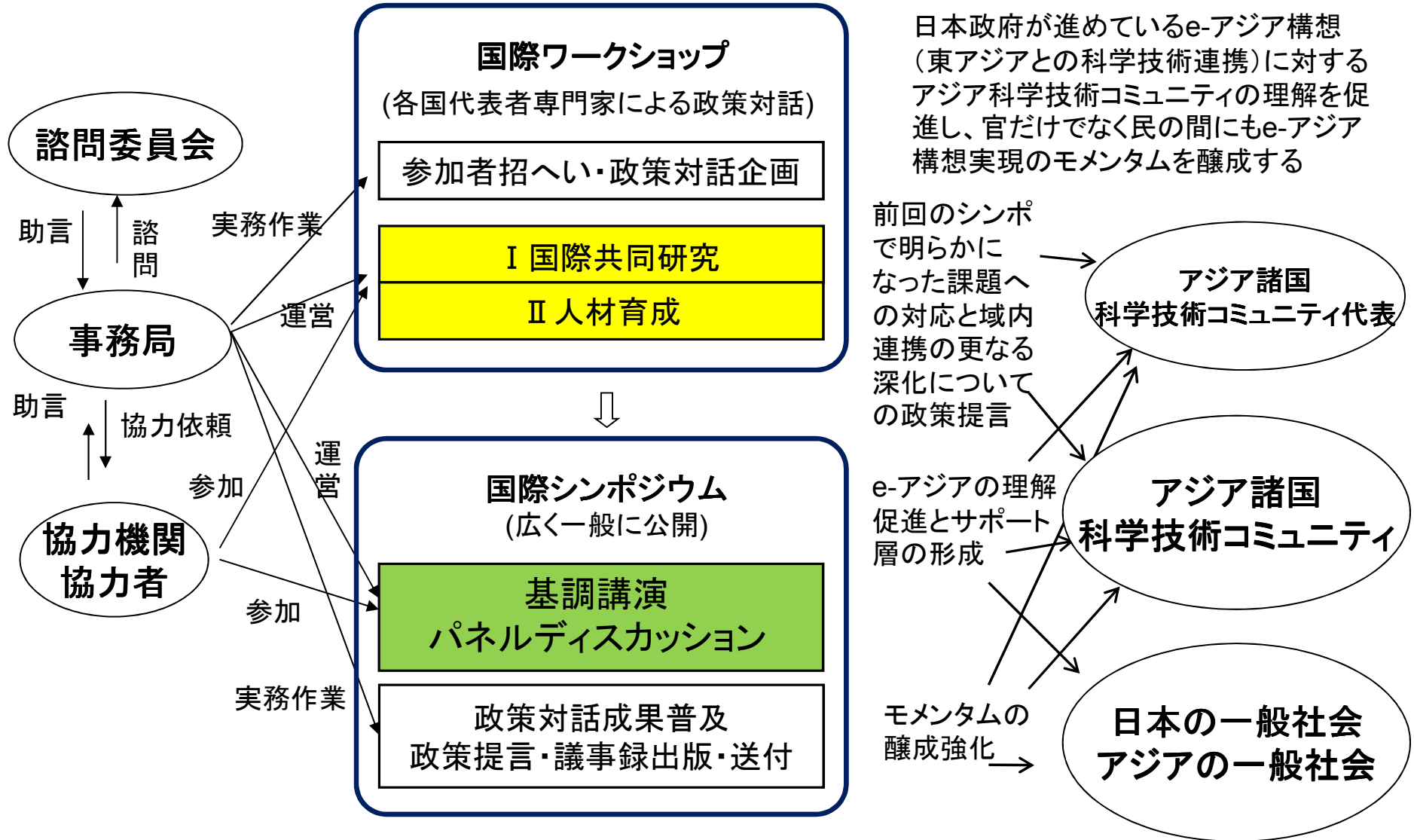
# 実施内容

## e-アジア国際シンポジウム2012

### アクター

### 活動

### 目的と対象



## ミッションステートメント

- 提案国際集会名 「e-アジア国際シンポジウム 2012」
  - 提案団体名 「一般財団法人武田計測先端知財団」
  - 総括責任者名 「武田郁夫」
- (開催予定日程：平成 24 年 10 月 19 日～平成 24 年 10 月 20 日 (会期 2 日間))

### (1) 国際集会の概要

本事業は、東アジア各国の科学技術コミュニティ、民間営利・非営利部門、政府関係機関の代表者が、e-アジア国際シンポ 2011 で課題となった域内共同人材育成や共同研究について多面的な視点から議論を行うことにより、域内連携について理解を深めることを目的とする。前回より**規模を拡大**(参加国 7 か国→10 カ国以上、海外からの参加者 10 名→15 名以上)し、**継続的な議論**を行いアジア諸国への科学技術連携についての具体的な政策提言に繋げる。また、**若手関係者を招へい**して、域内連携に対するモメンタムを拡大する。幅広い一般聴衆の域内連携に対する理解を深め、域内連携への合意形成につなげる。

1 日目に、人材育成と共同研究についてワークショップを開催し、前回議論になった課題について検討すると共に起業家育成や域内共通課題に関する具体的な共同研究の事例を紹介し、議論を深化させ、域内人材育成についての具体的な政策提言に繋げる。また、アジアにおける科学技術活動の急速な拡大に対応した資金配分メカニズム、共同研究の拠点としての国際オープン・イノベーション・センター、科学技術活動を適正に行うためのガバナンスについても議論し、域内連携についての政策提言を目指す。2 日目には、アジアとの科学技術連携に対する合意形成を目的として一般に公開する国際シンポジウムを開催する。開会挨拶、基調講演等で日本の科学技術政策、e-アジア構想の進捗状況、国際技術協力について紹介する。また、招待講演で、アジア現地における日本企業の技術開発について紹介する。ワークショップの共同議長を中心としたパネルディスカッションを開催し、ワークショップでの議論を基に、域内連携を支えるいかなる共通理念の構築が可能であるか議論し、フロアと意見交換を行う。最後に、今回の会議での結論と継続的に議論すべき具体的項目について総括をまとめ、次回の国際対話への宿題とする。

### (2) 終了時に見込まれる具体的な成果

- ・アジアの科学技術コミュニティ、民間営利・非営利セクター、政府関係機関等者の代表者の域内連携に対する理解が深まり、域内連携に向けてのモメンタムが拡大する。
- ・国際シンポジウムに参加した幅広い聴衆の科学技術の域内連携に対する理解が促進され、域内連携に対する合意形成に資する。(聴衆 8 割以上が構想に好意的な見解を抱くようになる。(アンケートで確認))
- ・前回の課題を継続的に検討することで、科学技術の域内連携を推進する具体的な政策

提言が可能となる。

(3) 期待される波及効果

各国参加者は、日本の科学技術コミュニティの有識者や科学技術関係機関の幹部職員、総合科学技術会議の議員等を訪問し、域内連携に対する日本の考えや今後の方向性等について意見交換する。これらを通じ、日本とアジア諸国間の科学技術協力に関する相互理解が促進され、今後の具体的な協力推進に資することが期待される。